

ふくしの宅配便

～この広報紙は赤い羽根共同募金の配分を受けています～

今年のきっかけづくりも熱かった!



伯耆町社会福祉協議会では、毎年小中学生を対象としたふくし体験交流事業を夏休み期間中に開催しています。子ども達が楽しみながらふくしに関心を持つことへつながるきっかけ作りをテーマとし、今年度も4企画を行いました。その様子を2ページに掲載していますのでご覧ください。
参加していただいた生徒の皆さん並びに保護者の皆様本当にありがとうございました。

夏休みふくし体験交流事業	2
共同募金のお願い	3
座談会報告、ふくしの集い案内	4
デイサービス、こどもパル フィットネス&スタジオパル	5
寄付者御芳名、県社協会長表彰受賞者 西日本豪雨災害ボランティアセンター運営支援	6

- 本所** 伯耆町大殿1010 (岸本保健福祉センター内) TEL 0859-68-4635 FAX 0859-68-4634
 [生活困窮者自立支援事業専用ダイヤル] TEL 0859-21-0608
 [フィットネス&スタジオパル] 直通 TEL 0859-68-4811
 小規模保育所こどもパル 伯耆町大殿1081-7 TEL/FAX 0859-39-8211
- 岸本支所・通所介護事業所・居宅介護支援事業所**
 伯耆町大殿1030-1(岸本老人福祉センター内) TEL 0859-68-3781 FAX 0859-68-4588
 [通所介護事業所] 直通TEL 0859-68-3706 [居宅介護支援事業所] 直通TEL 0859-68-5200
- 溝口支所・通所介護事業所・訪問介護事業所**
 伯耆町溝口281-2 (溝口福祉センター内) TEL 0859-63-0666 FAX 0859-63-0660

きっかけは夏休みから！ ～夏休みふくし体験交流事業～



◆車椅子バスケットを体験しよう！

(小・中学生20名)

8月7日(火)に開催しました。障がい者スポーツの内、車椅子バスケットボールの歴史・ルールを通して選手の身体の障がいや程度を学んだ後、実際に競技用の車椅子に乗り対抗戦をしました。初めてとは思えないほど車椅子を上手に操り、スピード感にあふれ白熱した展開となりました。とても楽しく面白かった事と、車椅子に乗って通常のゴールの高さまでシュートを打つ難しさ(大変さ)を感じてくれたと思います。

◆クッキー作りに挑戦！

(町内小・中学生36名、町外小中学生4名、高校生1名)

7月26日(木)、8月9日(木)、障がい福祉サービス事業所『伯耆みらい』のパンもち工房にて開催しました。作業所の利用者・スタッフに教えてもらいながら、形や色をイメージし一生懸命作りました。クッキーが焼きあがる合間には、夏野菜をモデルに絵手紙づくりにも挑戦し、メッセージを添えた個性あるとても素敵な作品ができました。



◆盲導犬について学ぼう！

(町内小学生17名、町外小中学生12名、高校生4名)



8月24日(金)、日本盲導犬協会島根あさひ訓練センターからPR犬『ヒカ』が来てくれました。はじめに、盲導犬の仕事の内容・訓練方法・盲導犬の一生、必要とされている人について学びました。その後、視覚障がいの方の見えにくさ体験としてアイマスクを着用し白杖を使用しての歩行と、実際にPR犬に誘導され障害物を避けての歩行を体験し、最後はヒカちゃんと触れ合い終了となりました。実際に町で盲導犬を見かけても触れてはいけない事も学びました。

◆陶芸教室！

(小・中学生47名、町外小学生1名)

7月24日(火)、8月8日(水)に岸本陶芸教室の皆さん協力の下、開催しました。形づくりと釉薬(ゆうやく)塗りの2回コースで、仕上げまでそれぞれの思いがあり、個性のあふれた良いお皿ができました。

終了後には、陶芸教室の方に用意していただいたよく冷えた甘いスイカをみんなで食べ交流を図りました。

来年も、多くのご参加をお待ちしています！！



10月1日より赤い羽根共同募金運動が始まります 皆様のご協力をお願いします



今年度目標額 赤い羽根募金 1,574,000円
歳末たすけあい募金 572,000円

赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金は計画募金という種類の募金で、事業計画に基づいて伯耆町での募金目標額が決定されます。本年度お寄せいただいた赤い羽根共同募金は次年度事業に充当されます。また歳末たすけあい募金は集まった年度内に充当されます。

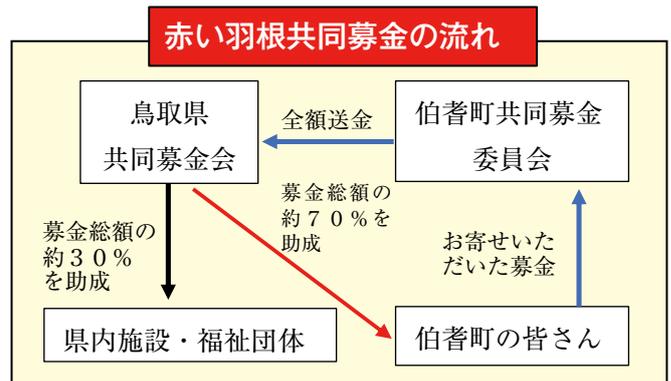
【計画内訳】

赤い羽根共同募金 (H30 募金 - H31 充当事業) (単位：千円)

執行者	事業名	計画金額
老人クラブ連合会	健康づくり事業	200
民生児童委員協議会	生活支援事業	37
身体障害者福祉協会	大会参加事業	50
手をつなぐ育成会	地域活動事業	47
伯耆町四団体 (精神障がい者家族会)	障がい児者支援ふれあい広場 「ほっとカフェ」	30
溝口小学校	交流体験及び栽培活動	45
ゲートボール協会	世代間交流ゲートボール大会	44
岸本小学校	花づくりと福祉活動	75
八郷小学校	花いっぱい運動	30
二部小学校	花いっぱい運動	24
溝口中学校	花いっぱい運動	52
岸本中学校	環境美化活動	45
伯耆町社会福祉協議会	広報紙発行事業	273
伯耆町社会福祉協議会	地域団体等交流助成事業	150
鳥取県共同募金会	県内施設・福祉団体助成	472
総計		1,574

歳末たすけあい募金 (H30 募金及び充当事業) (単位：千円)

執行者	事業名	計画金額
伯耆町社会福祉協議会	おせち料理配布	535
溝口青年会	おもち配布	20
鳥取県共同募金会	災害準備金積立	17
計		572



【昨年度募金実績】

赤い羽根募金 1,645,981円

■伯耆町への助成 → 1,179,352円

(1,152,981円と歳末募金の26,371円の合計)

- (内訳) ○高齢者福祉関係 287,000円
○障がい者福祉関係 127,000円
○児童福祉関係 265,000円
○福祉育成関係 500,352円

■県内福祉団体

施設への助成 → 493,000円

歳末たすけあい募金 573,005円

■伯耆町への助成 → 529,634円

■県災害時積立として → 17,000円

■赤い羽根募金充当 → 26,371円

～地域団体等交流助成事業のご紹介～

上記共同募金計画助成金の内、集落・地域団体などの活性化等を目的とした交流事業に助成を行っています。地域・団体内のつながりを強化・推進していくことを目的とした事業であれば申請して頂けます。詳しくは、社会福祉協議会(本所)までお問合せ下さい。

過去に申請があり助成した事業(例)

- (集落) ・世代間交流会 ・緑化活動 ・支え合い活動
・スポーツイベント など
(団体等) ・育児サークル など



赤い羽根共同募金



平成30年度 ふくしの集い開催のご案内

皆さまのご来場をお待ちしています♪

～住み慣れた場所で 支え合い安心して 暮らせる福祉のまちづくり～

日時 **9月30日(日)** 13時30分～16時
場所 **岸本公民館** (伯耆町吉長49)

【講演会】 13時30分～15時00分

演題 **皆が集える場所づくり ～サロンの一工夫～**

講師 **mottoひょうご 事務局長 栗木 剛氏**



★プロフィール★

1959年(昭和34)年生まれ。神戸大学教育学部(現国際人間科学部)卒。人呼んでレクリエーション風『話材』調理人、聞く人の心をおしゃべりでほんわか耕す舌耕家(せっこうか)。『楽しくなくっちゃ講演会じゃない!』をメインテーマに、レクを交えた講演で好評を博し、これまでに5千回を超える研修・講演を手掛けている。

- 赤い羽根共同募金
- 赤十字奉仕団による炊き出し
- 父原ボン菓子工房
- 防災グッズ展示コーナー
- 伯耆みらい(パン販売)
- フィットネス&スタジオパル
シナプソロジー体験



※詳しくは、8月末に区長便で配布しておりますチラシをご覧ください。

福祉地域座談会が終了しました!

～住み慣れた場所で安心して暮らし続けるために必要なこと～

6月3日から8月21日までの間で、28集落の皆様にご協力いただき福祉地域座談会が終了しました。ご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。

今年度から座談会の内容が新しくなり、集落ごとに4つのテーマの中から意見交換のテーマを選んでいただき、座談会をすすめてまいりました。実はこの4つのテーマは一つのキーワードで繋がっています。そのキーワードは、「住み慣れた場所で安心して暮らし続けるために必要なこと」です。そのためには自分自身が健康であること、集落の中で心配な方(高齢者世帯、独居世帯)への対応、見守り活動や住民同士の交流の場をつくるなど、どれをとっていても集落のなかで必要なことであるといえます。今回はそういったことについて意見交換を行いました。今回、集約した皆様からのご意見を社協事業に反映してまいりたいと思います。

- 4つのテーマ：①見守り活動について、②交流活動について、
③独居高齢者世帯への対応について、④健康づくりについて

溝口デイサービスセンター

たなばた祭りを 開催しました



7月9日(月)から14日(土)、溝口デイサービスでは恒例の「たなばた祭り」を行いました。地域ボランティアの皆様にお越しいただき、ハーモニカやサクソ、ギター、電子オルガンの演奏を披露していただき、利用者の皆様も楽しんでおられました。

祭りを盛り上げてくださったボランティアの皆様、ありがとうございました。



安心安全笑顔の岸本デイサービスセンター

夏祭り開催!! ワッショイ!!

8月22日(水)から24日(金)の3日間「夏祭り」を開催しました。

職員による神輿隊が登場し、手拍子とわっしょいのかけ声で始まりました。神輿隊がハッピーを脱ぎ岸本中学校体操服になり、組み体操を披露すると、「久しぶりに見たわ!」と感動される方もおられました。

その次はルーレットゲームで運試し!!どこに止まるかハラハラドキドキ。大当たりに止まると手を上げて喜んでおられました。最後にたこ焼き屋とたい焼き屋が出てきて、好きな方を選び食べて頂きました。



フィットネス&スタジオ パル お得なキャンペーンはじめます!

9月1日(土)から9月30日(日)まで“トリプルゼロ”キャンペーンをおこないます!

いつもなら入会費用最大で12,420円かかるところ、この期間中は**入会金、事務手数料、初月分の月会費の全てが0円**でご入会いただけます!ぜひ、この機会に入会して健康づくりを始めましょう!見学や体験も随時行っております。詳細は下記までご連絡ください。

入会時には本人確認できるもの(免許証、保険証など)、銀行届出印、口座番号がわかるものをご持参ください。



フィットネス&スタジオ パル TEL 68-4811
☆Facebookもはじめました!様々な情報を発信していきます♪

小規模保育事業所 こどもパル くじは何が当たったかな?

8月31日(金)、こどもパルでは夏祭りを開催しました。

オープニングは盆踊りから始まりました。子どもたちは音楽に合わせて体いっぱいを使い、楽しそうに踊っていました。踊りが終わると、様々なキャラクターになっているヨーヨーを、どれがいいかしっかりと見定めて釣っていました。祭りを締めくくったのは、当てくじ。何が当たるかわくわくしながら引いて、当たった物をお友達同士で見比べながら笑顔で夏祭りを終えることができました。



ご寄付ありがとうございました

平成30年7月1日～平成30年8月31日



寄付していただいた鮎は、溝口配食サービスと溝口デイサービスの昼食にて提供させていただきます。ありがとうございました。

一般寄付として

中西 一雄 様 (上細見)
 日野川水系漁業協同組合
 岸本支部
 (鮎) 様

原 倉 石 山 宅 奥 勝 中 松 長 中
 口 橋 黒 本 野 田 部 田 田 野
 勝 美 永 哲 英 孝 育 拓 智
 美 子 展 進 司 雄 元 二 也 恵
 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様
 (吉長) (こしき) (大寺) (口別所) (岩屋谷) (溝口) (福島) (岸本) (溝口) (田園)

香典返しとして

栄えある受賞の皆さん

平成三十年八月二十八日(火)、米子コンベンションセンターにて県民総合福祉大会が開催され、各分野で功績のありました方の表彰がおこなわれました。

表彰受賞者 (敬称略)

鳥取県社会福祉協議会会長表彰

民生委員児童委員功労

景山 良一(金屋谷)
 田中 徳恵(吉定)
 田中 治伸(大坂)
 中島磨里子(栃原)
 金田 和子(吉長)
 金田 芳子(焼杉)

社会福祉施設・団体職員功労

森脇 大介(上細見)



西日本豪雨災害ボランティアセンター支援派遣

溝口支所 森脇 大介

平成30年7月西日本豪雨災害、平成に入って最悪の豪雨災害は西日本の広範囲を襲い、200名以上の命が奪われ、被災地では現在も救助活動が続き、多くの方が避難生活をされています。

私は災害発生から2週間後、7月19日から4日間、広島県三原市に設置された災害ボランティアセンターの運営支援に携わりました。

私の任務は災害ボランティア活動コーディネーターとしてニーズ班を担当し、ボランティアを必要とする方の電話や来所による相談を受け、その内容を現地確認班とボランティア派遣を調整するマッチング班につなげるものでした。相談を受けると、住民からの再建に向けた強い気持ちが伝わってくる一方で、生活もろとも奪われた失望感、抑えきれない不安、焦り、憤りなど、さまざまな感情が交差し、緊迫感の中でのやりとりが続きました。特に電話での相談は、相手の表情や状況もわからない中、一つ一つの言葉にも配慮しながらの対応となりました。

各地の被災地もまだまだ先の見えない状況です。

災害ボランティアセンターを含め、被災地での支援は応急期の段階で、復旧・復興にはこれから数年はかかります。この災害ボランティア活動が復興期においても、住民の暮らしを支える担い手として、生活再建が実現するまで、途絶えることなく支援していくことは社協の使命でもあります。被災地にこれまでと変わらない生活と地域力が一日でも早く取り戻せるよう、これからも社協職員として、力になりたいと思います。



広島県三原市の様子

※伯耆町社協では、私を含め6名の地域福祉職員が3泊4日で交代しながら7月19日～31日までの13日間、被災地の災害ボランティアセンターで運営支援に携わりました。